

耐震化の必要性

平成7年1月17日未明に発生した阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）では、地震により6,434人の尊い命が奪われました。このうち、地震による直接的な死者数は5,502人であり、更に、この約9割の4,831人が住宅及び建築物の倒壊によるものでした。

東海地震や東南海・南海地震は発生の切迫性が指摘されています。また、ひとたびこれらの地震が発生すると、山梨県内全域で甚大な被害が発生すると想定されています。建築物の倒壊による被害から生命を守るためには、建築物の耐震化が必要です。

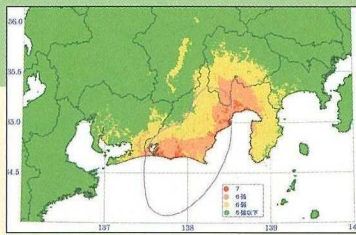
地震ハザードマップ説明

想定地震

南アルプス市地震ハザードマップ作成にあたって、国や県の調査結果を参考にして、南アルプス市に大きな被害をもたらす地震として、次の2つの地震を想定しました。

1 東海地震

東海地震はプレートの境界で発生する海溝型地震です。安政東海地震（1854年）から約150年間大地震が発生しておらず、相当な歪みが蓄積されていると考えられています。このため、いつ大地震がおきてもおかしくないとみられています。



2 糸魚川-静岡構造線断層による地震

糸魚川-静岡構造線活断層系は、日本列島のほぼ中央部に位置する、全長140～150 kmの活断層系です。平成8年の地震調査研究推進本部の調査によると、糸魚川-静岡構造線断層による地震は、今後数百年以内に、マグニチュード8程度の規模の地震が発生する可能性が高いとされています。

揺れやすさマップ

「揺れやすさマップ」は、南アルプス市に大きな影響を与える地震として想定した上記の2つの地震が発生した場合に想定される揺れの大きさ（震度）を重ね合わせて、それぞれの地域で生じる可能性のある最大の揺れの大きさとして取りまとめたものです。

液状化危険度マップ

「液状化危険度マップ」は、東海地震が発生した時に地盤の「液状化現象」が予想される地域について、現象が発生する可能性を色分けして表示したものです。

「液状化危険度マップ」は、「山梨県東海地震被害想定調査」(山梨県, H17)の結果を参考に作成しました。

地域の危険度マップ

「地域の危険度マップ」は、平成21年1月時点の地域毎の建物情報（構造別・建築年次別の建物比率）に基づき、「揺れやすさマップ」に示した揺れが発生した場合に想定される建物全壊率を評価し、まとめたものです。

建物全壊率は地震による個々の建物の危険度を表したのではなく、地域内の建物の内、揺れにより全壊する建物の割合を表示したものです。

注意) マップで示した揺れやすさ・危険度等は、地震の規模や震源からの距離より予測したものであり、地震の発生の仕方によっては、揺れが予測結果よりも大きくなることもあります。